

雪だるま造形検討 第3回

■今週は紙紐を編んで球体を作る実験をしました。

↓制作の流れ

- ① 綺麗な球体にするために、風船に沿って紙紐を編んでいきました。



- ② 現段階で風船を取っても形が崩れず、丈夫さがありました。



- ③ 風船の半分に編み糸が差し掛かろうとした時には、紙紐が風船をしっかりとホールドしていて風船が抜けない状態になりました。

脱線してしまいますが、半球まで編んだ状態は他の造形で使えそうな可能性を感じさせる見た目でした。(鳥の巣やどんぐりのかさを表現できそう。風船を金魚鉢のような球体のガラス容器に代用させても、面白い表現ができそう。) 今回は風船が黄色なのもあってか、ひよこが卵の殻をはいているように見えたので、息抜きがてらひよこの顔をペンで描いてみました。(最終的に風船は割ります)



④ 風船の半分地点を過ぎると、内側へ面を編んでいくことになります。球体の面を内側へ編んで作っていくのはかなり大変でした。



⑤ 一応先端まで編んでおいて、洗濯挟みで留めておきました。



⑥ 完成した球体の直径は約 15 センチです。画像では風船が中に入ったままになっていますが、割る予定です。



■制作した感想

丈夫で綺麗な球体になりました。雪だるまの造形は紙紐を編む方法で作ることにします。紙紐という素材の特性上、雪だるまの顔のパーツや小物などの仕上げ次第で、チープさといった悪い面ができるか素朴なハンドメイド感といった良い面ができるかが決まると思います。良い面が出せるように仕上げていきたいです。

■今後の計画

- ・光関連の検討→先生にアポ
- ・もう一つ球体を作り、2つの球体をどう繋ぎ合わせるかを検討する。

- ・雪だるまの顔のパーツ、手、帽子・マフラーなどの小物の有無とどのような素材でそれらを表現するのかを検討する。
- ・雪だるまを倒れないよう立たせておく方法の検討。